



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱いこま			
保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月28日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	67名	(回答者数)	15名
従業者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月28日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	2名
事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	平日・長期休暇に応じて、きめ細やかに設定している。	学校・家族・関係機関との情報共有、連絡調整を行なっている	スタッフの資質向上のため、内外の研修の機会を確保している。
2	毎日、児童が帰宅後に、同日の振り返りを実施している。その都度、スタッフ間で児童の課題を共有し、児童に今必要な療育内容を検討し、取り入れている。	適宜必要な際は、電話・学校面談・支援会議など各関係機関との、情報共有や支援の内容について、検討している。家族とも年二階の定期面談と連絡専用LINEを用いて情報上優を実施している。	児童の直近の様子や今後の取り組みについて会議を実施している。当日参加が難しいスタッフにも共有できるように議事録で記録している。
3	長期休暇ではイベントが重なり、児童の細やかな療育の様子が口頭では、全スタッフに行き届かない部分がある為できるだけ全スタッフに行き届くよう、議事録やLINEを用いて共有できるようにしていく。	現状、児童発達支援管理責任者が一人で各関係機関とやり取りしていることが主なため、他のスタッフもそれぞれの場所へ参加できる機会を増やしていきたい。	それぞれの児童の特性やかかわり方について、引き続きその都度共有し、課題に向けてスタッフ一丸となり取り組めるように意識をしている。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内に手すりが設置されていないため、歩行補助の必要な児童には、一人もしくは二人のスタッフが補助についている。	重度心身障害者の受け入れを想定していないため。	身体に不自由のある児童が支援受けやすくなる言動の獲得や、周囲の児童が配慮や思いやりを持てるように支援している。
2	保護者に対するペアトレ等を実施していない。	個々のお困りごとの内容が幅広く、保護者が児童の支援へ向き合う温度差が大きいため。	現状実施している個別面談や相談に対して、助言・対応することを継続する。
3			